

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 一般-82

学校名・団体名	加古川市立東神吉小学校
HPアドレス	<a href="http://www.city.kakogawa.lg.jp/gakoen/kamiki-chichugakkoku/higashikamikichishogakko/index.html">http://www.city.kakogawa.lg.jp/gakoen/kamiki-chichugakkoku/higashikamikichishogakko/index.html</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域との連携を中心にした食育実践教育
<b>〈活動・研究の意義、目的〉</b> ①専門的な知識や技術をもつ地域の人材の協力を得て、農業体験や自然体験学習などの取り組みを行なうことができる。人や自然と積極的に関わることで実感を伴った学びができ、地域に対する愛着も深まる。 ②スカイプ（インターネットテレビ電話）の活用によって、他県（宮城県気仙沼市大島小学校）との食文化の違いを実感として捉えることができる。相手と双方向のコミュニケーションを行うことで、学習がより主体的なものになり、インターネットや本からの情報収集からでは得られない体験ができる。 ③食に関する適切な知識と食の大切さの習得、自然に対する恩恵の念や食への感謝の心の育成、食文化への理解の高まり等が挙げられる。そして、生涯にわたり健やかな心と身体を育もうとする態度の育成、家庭・地域における習得した食育の知識を生かした実践が将来において期待できると考えている。	

本研究では、食生活改善に向けて、学校における食育を充実させていくことが重要と考え、地域や家庭、関係機関との連携を図りながら、学校教育活動全体で取り組む食育を推進させていくことにした。

まず、児童の実態や取り組むべき課題を明らかにするために、食に関するアンケートで実態調査を行い、児童の現状を把握するようにした。実態や課題に基づいて、児童が課題解決に迫る探求的な授業づくりを目指して、教材開発と授業研究に取り組んだ。

### (1) 地域との連携

教材開発の中では特に地域連携に重点を置いた。本校は昔からの農村に位置していることもあり、以前から町内会の協力で農業体験活動を行ってきた。例年、4年生が総合的な学習でもち米を栽培し、収穫したもち米を校内で販売したり、お世話になった方と収穫祭をしたりして農業に親しんできた。このような食に関する体験活動を充実させることをねらいに、地域の多方面の協力を得ながら、連携を深めることにした。

加古川市が生ゴミの減量のために推進している、ダンボールコンポストによる堆肥作りを5年生が体験した。加える生ゴミの量や温度を3ヶ月間記録しながら、堆肥ができる過程を学ぶことができた。その他には、地場産物の関係機関による出前講座を積極的に活用した。漁協による「いかなごぐぎ煮教室」、乳酸飲料企業による「おなか元気教室」等で、専門家による指導を受けることができた。

地域においては、生活科の「町たんけん」で、近くのJAふぁーみんショップを見学し、地元の産物がたくさん販売されていることを確かめた。また、校区内の施設「少年自然の家」では、焼きいも体験を行った。



### (2) 東日本大震災の被災地との交流

宮城県気仙沼市立大島小学校とICT機器を活用した交流がある。大島小学校とは、東日本大震災のときに、当時の4年生が自分たちと地域の方の協力で育てたもち米を支援物資として送ったことをきっかけに交流が続いている。はじめの3年間は手紙による交流だったが、「大島小学校の子どもたちともっと仲良くなりたい!」という子どもたちの願いを受け、相手の顔を見てリアルタイムで会話のできる「スカイプ」や「テレビ会議システム」を利用し、それぞれの郷土の食物を紹介し合う活動を実施した。



この授業の成果としては、「食」を題材とすることで、楽しみながら交流をすることができたこと、兵庫県の特産物を調べる活動を通して、郷土の食文化に対する知識や関心も高まった事が挙げられる。また、大島や宮城県の特産物の紹介を受けることで、他県の食文化にも興味を持つようになり、質問したいという意欲を引き出すことができた。来年度以降はタブレット端末を利用して少人数グループの交流ができ一人一人の活動量を増やしたいと考えている。

### (3) 成果発表について

その成果を平成27年11月17日の加古川市立東神吉小学校における学校食育研究大会において発表した。全学級が国語・社会・生活・道徳・総合的な学習・外国語活動・生活単元学習等の授業を公開し、研究実践を紀要(カラー印刷150ページ)にまとめ、参加者(合計354名)に配付した。詳細は研究紀要に、また公開授業については以下の通りである。

11月17日 学校食育研究大会 参加者合計人数 354名  
公開授業 1年1組 国語 おはなしのとびらをあけて「サラダで元気」  
2年1組 学級活動「ちょこっと気づかい」で、みんなが気持ちよい食事!

- 2年2組 生活 しゅうかくにかんしゃ ぐんぐんのびろ「こんなにできたよ」  
 3年1組 道徳 へこたれないーきせきのりんごー  
 3年2組 社会 里いも農家の人が目指している野菜は「農家の仕事」  
 4年1・2組 総合的な学習  
 テレビ電話でつながろう！～気仙沼市立大島小学校との絆プロジェクト～  
 5年1組 外国語活動 おすすめの和菓子を紹介しよう  
 6年1組 社会 ぼくらの食料宣言！「新しい日本、平和な日本へ」  
 6年2組 国語 提案します！食でつながるコミュニティ  
 町の幸福論ーコミュニティデザインを考える

なかよし1・2組 生活単元 ジャムー1（ワン）グランプリを開催しよう

また、平成27年9月には加古川市立東神吉小学校の実践が掲載された「入門食育実践集」（藤本勇二先生編著 全国学校給食協会発行）が出版された。今後、月刊「学校給食」（全国学校給食協会発行）にも本校の取組が掲載される予定である。具体的な成果としては、多くの教材開発ができ、意識調査である「食育生き生きチェック」の全項目（11項目）において向上が見られたことの2点が挙げられる。

#### （4）分析結果と今後の食育について

「食育生き生きチェック」は本研究のため作成した効果測定用の意識調査である。以下は質問紙の11項目である。（4件法での回答を求めた。）

（児童用）

1. 食育の学習は、楽しい。
2. 食育の学習は、生活に役立っている。
3. マナーを守って食事をしようと思う。
4. 食べ物や作ってくれた人に感謝して食べようと思う。
5. 給食をみんなと食べることは、楽しい。
6. 健康づくりのために食べ物や食べ方に気をつけようと思う。
7. 早ね、早起き、朝食をとるなど規則正しい生活を送ることは大切だと思う。
8. 季節や行事にちなんだ食事は大切だと思う。
9. 地域でとれる食べ物を知っている。
10. 自分で料理を作れるようになりたいと思う。
11. 農作業の手伝いや野菜作りの体験は自分達の将来に役立つと思う。

前述のとおり全項目で数値が向上した。更にその効果を知るため、「食育生き生きチェック」の数値と以前より実施していた学校環境適応感尺度「アセス」の結果をSPSSを使い重回帰分析した。アセスとは、いじめや不登校の予防等、児童の学校生活支援を進めるための「学校生活に関するアンケート」である。このアセスは、「生活満足感」「学習的適応」「对人的適応」の3つの観点から学校適応感をとらえることができるため、加古川市では3年生以上の児童に6月と12月の2回実施し、結果を児童理解に活かしている。

今回は、食育の推進による学校適応感の変化をとらえ考察した。その結果、「生活満足感」と「地域でとれる食べ物を知っている」等のいくつかの項目間で有意に相関があることが分かってきた。今後更に分析を進め、食育推進のために役立てたいと考えている。

また、今後も地域連携を更に進める予定である。本校では3年生が校区内にある神吉山で毎年植樹をし、巣箱を取り付けるなど環境整備に協力している。その神吉山でニホンミツバチの巣箱を設置する予定である。神吉山は地域の有志の方が整備している里山である。これまでも採れた樹木の実や竹などを食育の教材に使ってきた。ニホンミツバチの蜜を使った教材開発を行い食育に結びつけることができるのではないかと考える。



地域と連携した食育実践をすることで、子どもたちは郷土の良さを知り、誇りを持つことができた。食育が学校と地域をつなぐ役割を果たしたと言える。『学んだけど生活が変わらない』そんな食育にならないためにも、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとする問題解決型の学習にすることが大切である。学習の中に探求活動を組み込み、問題を自分のこととして捉えさせることで、食の学びを行動へとつなげていきたい。